

エエトコ タント

岐 阜 市 2 0 2 1

Live

Visit

Taste

The world is about to change dramatically.

How might your life be affected? Will how you work or raise children change too? There's no easy answer to these questions, but considering them may serve as an opportunity for you to rethink how you will prepare for the future.

How about becoming the main character of your life and enjoying what you do? There are many people doing just that in GIFU CITY. GIFU CITY offers a comfortable place to live, many chances to get connected with those around you, a fascinating culture, and delicious food.

See for yourself the many things you can do and experience in GIFU CITY!

G I F U C I T Y

答えは岐阜にある。





green yang

The world is about to change dramatically.
How might your life be affected? Will how you work or raise children
change too? There's no easy answer to these questions, but
considering them may serve as an opportunity for you to rethink how
you will prepare for the future.

How about becoming the main character of your life and enjoying what
you do? There are many people doing just that in GIFU CITY. GIFU CITY
offers a comfortable place to live, many chances to get connected with
those around you, a fascinating culture, and delicious food.

See for yourself the many things you can do and experience in GIFU CITY!

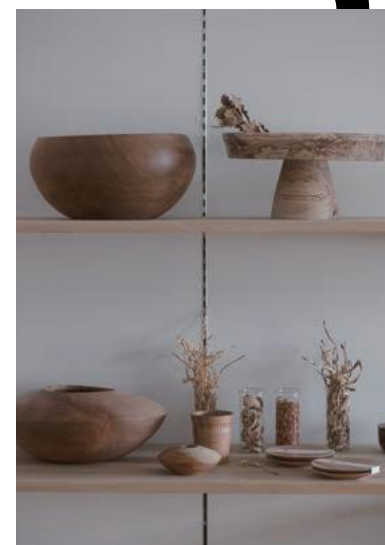
GIFU CITY

答えは岐阜にある。

INTER
SECTIONAL

まちを歩き、目に留まった風景を
写真に収めてみると、
ひと言では表せない多様さこそが
「岐阜らしさ」なのだと気づかれます。

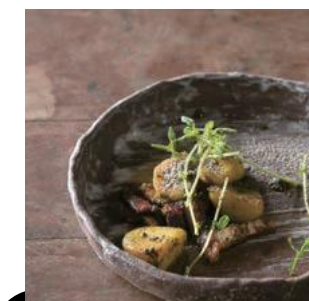
市の真ん中を流れる長良川のように、
自由な風が通り抜け、変わり続けるまち。
人や文化が交わりながら、
次の岐阜市が始まろうとしています。



Introduction

CONTENTS

- P06 答えは岐阜にある。
- P08 座談会「岐阜市を語ろう」
- P12 岐阜市で暮らす
- P20 岐阜市をめぐる
- P30 岐阜市で味わう
- P38 こどもファーストのまち 岐阜市
- P40 今、住みたいまち 岐阜市
- P41 魅力あふれるまち 岐阜市
- P42 岐阜市イベントカレンダー



CITY

The Answer is in Gifu City

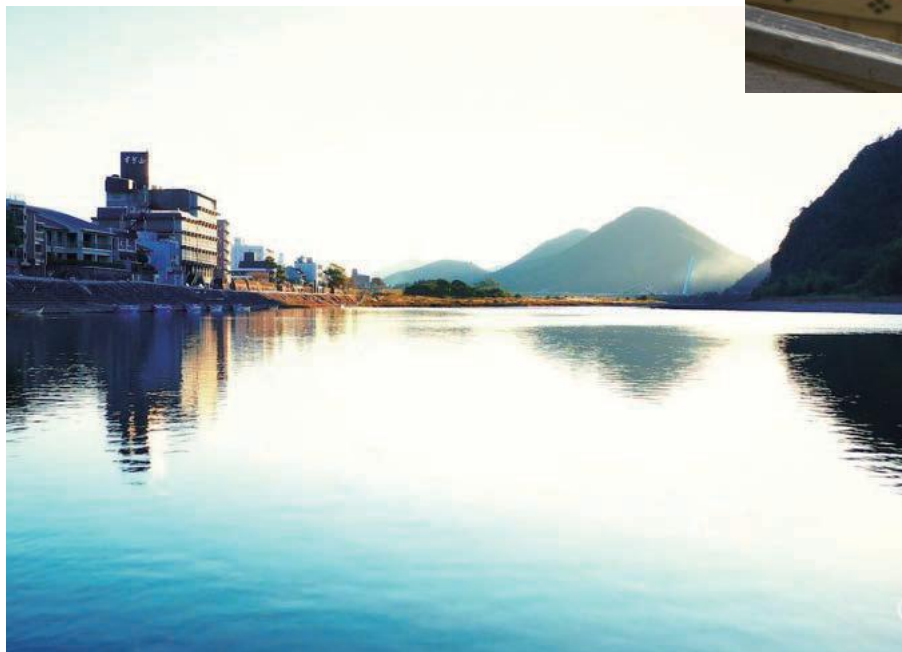
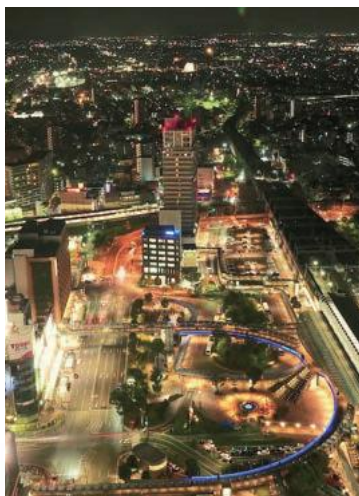
INTERSECTIONAL CITY

交差するまち

■ 編集前記

歴史情緒や観光地としての風情も外すことのできない岐阜市の魅力ですが、今回の『エエトコタント』では敢えて、「挑戦の気風」という新しい価値を提案したいと思います。「何かを変えようとしている人や、面白いことをやろうとしている人が増えてきた」。今回取材したある人は、そんな言葉で現在の岐阜市を語っていました。周囲の人から刺激を受け、「よし、自分も!」と行動を起こしてみる。そうした前向きな意識が広がっていくと、何が起きるのでしょうか。次の岐阜市の姿を知るために、「人」に焦点を当てて仕事の現場や暮らしの様子を取材しました。岐阜市を舞台に挑戦する人たちの、リアルな姿をご紹介します。

INTERSECTIONAL CITY



The Answer is in Gifu CITY

答えは岐阜にある。

いま、世の中が大きく変わろうとしています。

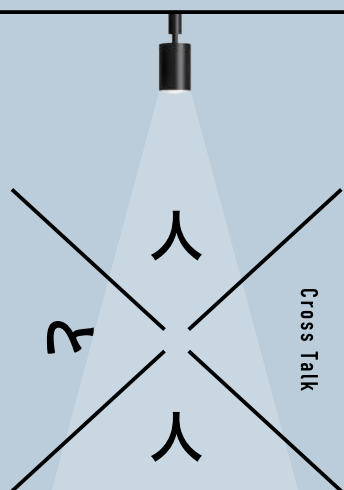
これからの暮らしはどうなるのか。働き方は？ 子育ては？ 簡単に答えは出ませんが、

ひょっとしたら、いろんなことを考え直すチャンスなのかもしれません。

自分が主人公になって、自分の人生を楽しむ。そんな人たちが、岐阜市にはたくさんいます。

暮らしやすい環境や人とのつながり。魅力的な文化やおいしい食べ物。

いろんなものがそろった岐阜市だからできること、感じられることを、探してみてください。



座 談 会

自分の夢に挑む20歳の若者と、

地元の経済を守る銀行員。

名古屋市出身のショップ経営者。

年齢も職業も異なる3人の方に、

岐阜市の魅力を語っていただきました。

岐阜市の「これから」のことを、

ぜひ一緒に考えてみてください。

「この人から買いたい」と思われる人に。

—まず、皆さんのお仕事やこれまでの経歴を教えてください。

■木方：古着とオリジナルブランドの商品を扱う、「NEW OLD YORK」というショップを経営しています。以前はブランド古着をネットで販売する仕事をしていました。その後、自分で店をやりたいと思った時にご縁があったのが、柳ヶ瀬商店街の中にある「やながせ倉庫」です。そこで場所を借りて経験を積んだ後、現在の場所に店を移転しました。

■高橋：私は十六銀行で営業担当として働いています。岐阜市出身ですが大学時代は名古屋で一人暮らしをしていました。卒業後、自分が生まれ育ったまちで働きたいと思い、岐阜の銀行に就職しました。

■安藤：私はアパレルの店とお菓子屋さんでアルバイトをしながら、イベントに出店して自作のアクセサリを売ったりしています。自分の店を持つことが将来の目標で、カフェのような形態にしてアクセサリも置きたいと思っています。

—安藤さんが今特に力を入れているのはどんなことですか？

■安藤：私はアルバイトを掛け持ちして、お菓子屋さんでお菓子づくりの勉強をするなど、今後の自分のためになることを一つでも多く吸収しようと思っています。ただ、その中でもアパレルの接客は特に難しさを感じます。商品を買うかどうか決まっていないお客さんに、こちらから声をかけるという接客なので。

■木方：その難しさは分かるよ。僕も、店で接客すること自体は今でもそんなに得意じゃない。だから、店に立つ以外の時間を使っ

て自分を高めることを心がけているよ。物の考え方やコミュニケーションも大事だし、音楽などの知識を深めてお客さんとの接点を増やすことも必要だと思っている。

■安藤：そういう日々の努力が必要なんですね。

■高橋：自分を高めることの大切さは、私も日ごろから感じています。入行3年目の今年から営業担当になったのですが、正直壁にぶつかることも多くて。お客様のニーズにお応えすることの難しさを感じています。

—たとえばどういうニーズがあるのですか？

■高橋：銀行の役割として、一般的にはお金を「お預かりすること」と「融資すること」の2つをイメージされると思うのですが、私たちがやっている仕事は他にもいろいろあります。たとえば資産運用のご相談に乗ることや、お客様に新しい販売先や仕入先をご紹介しますことなどです。幅広い対応力が求められる仕事だと感じています。私はまだ営業の経験が浅いので、まず目の前のお客様に向き合い、自分の提案の幅を広げる必要があると思っています。

鵜飼ってこんなにきれいだったんだ。

—続いて、岐阜市で生活されている皆さんに、市の魅力を語っていただきたいと思います。

■木方：たくさんありますよ。名古屋市出身の僕から見て、岐阜には面白さしか感じないです。僕は京都や東京で生活した後、結婚と同時に岐阜に来了たのですが、岐阜に住み始めたら「一生ここで

暮らしたい」と思いました。

■高橋：岐阜を気に入った理由は何ですか？

■木方：まず、食べ物がおいしい。そして人が多すぎず、排他的な感じがない。さらに岐阜の人のすごく良いところだと思うのは、プライドが高すぎないところ。あまり自分のまちのことを自慢しないよね？

■安藤：そうですね。自慢しないどころか、「岐阜には面白いところが何もない」とか言う人もいますね。

■木方：そう。自分のことを謙遜する感じ。でもその一方で、ものすごく職人気質でこだわりを持って面白いものを作っていたりする。そういう気質に魅力を感じる。

■高橋：確かに私も名古屋に住んでいた時、仲が良かったのは岐阜出身の人が多かったです。偶然かもしれませんが、何となくお互いの波長が合ったのかもしれない。

■安藤：あと、「岐阜には面白いところがない」という人の中には、本当に岐阜の魅力に気づいていない人もいる気がします。この前友だちとご飯を食べに行った時に、金公園のあたりのお店を案内したら、「知らなかった。岐阜にこんなにいいお店がたくさんあるんだ!」と驚いていました。

■高橋：私も最近、同じようなことを感じました。新型コロナウイルスの影響がある中なので、地元を利用しようと思い、生まれて初めて長良川沿いの旅館に泊まったんです。間近で見る鵜飼が想像以上にきれいで、こんなに楽しめる場所だったのかと感動しました。岐阜市民は意外と外に目が向いてしまっていて、地元の魅力に気づいていないのかもしれないですね。

■安藤：そう思います。イベントなどでお客さんと話していても、県外から来る人の方が岐阜のことを「面白い」と言ってくれますね。

■木方：そうそう。うちの店のインスタグラムのフォロワーさんも、

■ 木方史人さん

名古屋市出身の37歳。京都や東京での生活を経て、結婚を機に岐阜市に住み始める。現在は市内で「NEW OLD YORK」というショップを経営。3人の子のお父さんでもある。

■ 高橋陽介さん

岐阜市出身の25歳。名古屋市の大学を卒業後、地元に戻り十六銀行に就職。現在は長良支店で法人営業を担当している。趣味はバスケットボールで、地域の社会人サークルで活動中。

■ 安藤由奈さん

岐阜市出身の20歳。高校を卒業し、アパレル関係の企業に就職した後フリーターになる。現在は複数のアルバイトをしながら、イベントで自作のアクセサリを販売する。夢は自分の店を持つこと。

「岐阜の魅力に一番気づいていないのは、岐阜市民かもしれないですね」



7割くらいが名古屋の人だよ。来店された時に、「面白いスポットありますか?」とか「このへんでおいしいご飯屋さんを教えてください」とかよく聞かれる。うれしいけど、もうちょっと岐阜の人が来てくれたら……という寂しさもある(笑)。

■安藤:「灯台下暗し」みたいな感じになっているのかもしれないですね。

岐阜だけで一日の楽しみが完結する。

■木方:ところで岐阜って、まち歩きが規模がちょうど良くない? 食事できる店も飲み屋さんもコーヒースタンドも近くにそろっていて、使い勝手がいい。

■安藤:洋服屋さんも雑貨屋さんもありますしね。岐阜のまちだけで一日の楽しみを完結できますね。岐阜の店で買い物をする時は、ただ商品を買うだけではなく「人と関わる楽しさ」というプラスアルファのものをもらえる気がします。

■木方:県外から友だちが来た時に、連れていくと喜ばれるの

が、超ローカル喫茶みたいなB級スポット。柳ヶ瀬周辺とかは特にそういう楽しみがあるよね。

■安藤:私もイベントなどで関わる機会が多いので柳ヶ瀬は好きです。でも、岐阜に住んでいる人でもたまに、「柳ヶ瀬に行ったことがない」っていう人いませんか?

■高橋:実は……私がそうです。柳ヶ瀬には、ちゃんと行ったことがありません。

■木方:ここにいたとは(笑)! 高橋さんは、買い物をする時はどこに行くの?

■高橋:名古屋に行くことが多かったです。でも、今日お二人の話を聞いて、柳ヶ瀬を楽しんでみたいと思いました。これからはもっと、岐阜のいろんな場所をめぐってみようと思います。

—これからの岐阜市はどうなっていってほしいと思いますか?

■木方:いろんな可能性があると思います。まず思うのは、鶺鴒などの観光を含めて岐阜の楽しみ方を小旅行としてパッケージングしたら、魅力的な提案ができるということ。僕は今経営している店とは別に、ゲストハウスをやりたいと思ったことがあって。岐阜に泊まってもらう前提で考えれば、もっと違った魅力を発信できると思います。あと、それとは別の視点で、若い人が集まれるスポットがもっとあったらいいと感じています。自分自身がそういう場所づくりに関わりたいと思っています。

■安藤:私はさっきの話に出たように、岐阜の人たちが謙遜するのではなく、「岐阜はすごいよ!」と誇れるまちになってほしいと思います。たくさんの方が、岐阜の魅力に気づいてくれたらうれしいですね。

若い世代の人に挑戦のきっかけを。

—今は新型コロナウイルスの影響を受けて、大変な思いをしている経営者の方も多いと思います。皆さんの周囲はどのような感じでしょうか。

■木方:僕と同じような規模の経営者は、厳しいながらも何とか商売を続けている感じだと思います。ただ、大きな規模で事業をしている人は、やはり大変そうだと感じます。

■高橋:そうですね。私が知っている限りでも、2020年の4月くらいからの業界も売上が落ちている状態だと思います。その中でも人件費や経費を払っていかないといけないので、とても厳しい状態にあると感じます。「従業員の給料を払うために借入れをしたい」といった形で銀行を頼ってくださるお客様に、どう応えていくかが今の課題です。お客様のお困りごとに応えることが銀行の役割だと思うので、少しでもお力になりたいと思っています。そういう経験を積み重ねて、地元で恩返しできるようになることが目標です。

—安藤さんと木方さんの今後の目標も教えてください。

■安藤:私は自分の店を作るために準備しているところです。私がいろんな仕事をする中で分かってきたのは、人と話すのが好きだということです。来店されたお客さんと深く関わることができ、さらにお客さん同士の新しいつながりが生まれるような、魅力的な店を作りたいと思っています。

■木方:僕も自分の店を発展させていろいろやってみたいことはあります。そしてそれとは別に考えているのが、自分よりも若い世



代に挑戦のきっかけを与えられるような人になること。「やってみたいことがあるけど何から始めたらいいかわからないので教えてください」ということを最近よく言われます。でも、自分で商売をやりたいと思って、最初から資金を用意して店を構えるのはハードルが高いと思うんです。

■安藤:そうですね。私もその難しさを感じます。

■木方:たとえば自分の経験を振り返ってみると、やながせ倉庫という、商売を始めやすい場所があったからこそ、ステップを踏んで店を作ることができた。だから自分も、若い人が大きなハードルを越えるための中間のステップを用意してあげたいと思っています。

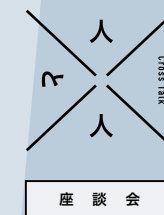
■安藤:今度相談に行きます。ぜひよろしくお願いします!

■高橋:お二人とも、「将来こうしていきたいんだ」という目標を明確に持っていて尊敬します。

■安藤:私は高橋さんの地元に対する熱い思いを聞いて、すごいと思いました。地元への恩返しをがんばってほしいです。

■木方:高橋さんが、これを機に岐阜のまちの楽しさに目覚めてもらえたらうれしいな。きっと人生の楽しみが増えると思うよ。

■高橋:そうですね、次に3人で会う時は、柳ヶ瀬で食事でも!



「岐阜の店では、『人と関わる楽しさ』という
プラスアルファのものをもらえる気がします」



Lifestyles of New Local People.

他の地域から移住してきた人や、Uターンで戻ってきた人など、

いろいろな人の「暮らし」を特集するページです。

市街地のにぎわいも楽しいけど、郊外では豊かな自然も楽しめる。

そんな岐阜市ならではのライフスタイルとは、どのようなものでしょうか。

また、「働く場所」として見た時、岐阜市にはどのような魅力があるのでしょうか。

オフの過ごし方や子育てのことも含め、

「暮らし」について広い視点で紹介します。



Lifestyles of
New Local People. 01 / 5



柳ヶ瀬の真ん中に誕生したシェアハウス 商店街をHOMEにした、3人の女性の日常とは

柳ヶ瀬商店街の一角。飲食店が入居するビルの上層階に、3人の女性が暮らすシェアハウスがある。入居者はそれぞれ柳ヶ瀬周辺で仕事を持ち、職住近接のまち暮らしをしている。ここはもともと、ビルのオーナーが暮らしていたスペースで、その転居に伴って2019年の夏頃から工事が始まった。リノベーション後にここで生活を始めることになっていたのが、設計事務所で働く田口沙也香さんと、まちづくり法人「柳ヶ瀬をたのしいまちにする株式会社」で働く土肥彩香さん。DIYの経験がある2人は、内装工事の一部を自分たちの手で行った。田口さんは振り返る。「大工工事や設備工事はプロの職人さんが行いましたが、それ以外の塗装は自分たちで行いました。リビングの壁やタイルなどを塗ったのですが、いざ始めてみたら想像以上に壁が広くて。塗っても塗っても終わりませんでした(笑)」空いている時間を使って塗り進め、3か月ほどかけてようやく作業が完了。2019年の11月から、いよいよシェアハウスでの生活が始まった。それから半年ほどして入居したのが、各務原市に住んでいた安田さん。イラストの制作が好きだと言う安田さんは、イラストレーターの経験を積む場として柳ヶ瀬を選んだ。「シルクスクリーン印刷などを体験できるお店が柳ヶ瀬にあり、そこで働きながらイラストレーターとして活動することを決めました。各務原にいる時から、『柳ヶ瀬で面白いことが始まっている』と感じていたので、その一員になることができてうれしく思います」

安田さんの言う“面白いこと”とは、「サンデービルディングマーケット（以下、サンビル）」をはじめとするイベントや、空き物件を活用した新店舗の開店など、このエリアで活発化しているまちづくりの取り組み。土肥さんや田口さんはそれぞれ、勤務する会社の業務を通してそうした活動に携わっている。「私は今の会社に新卒で入社し、柳ヶ瀬の活性化に関わってきました。柳ヶ瀬というまちが県外の人からも注目されているのを感じます。柳ヶ瀬は、岐阜の中でも特に面白くて熱い場所だと思います」と土肥さんは話す。一方、プライベートの時間を使って取り組んでいるのが、「表現」に関する活動。安田さんだけでなく、土肥さんと田口さんもそれぞれイラストやデザインを制作しており、オリジナルのグッズをイベ

ントなどで販売することもある。リビングのテーブルにパソコンを広げて行う、作品づくり。描いたものを楽しそうに見せ合う様子から、3人の関係の良さがうかがえる。普段は各自のプライベートを尊重しているが、休みが合う時は誘い合って食事をしたり、リビングで映画やライブ映像を見たりと、3人で過ごす場面も多いという。いざ外食しようと思えば、近所にたくさんの飲食店がある。そんな便利さも、商店街の中で暮らすメリットだ。やりたい仕事や叶えたい夢。いろいろなものを持ち寄って始まった商店街での暮らしは、周囲の人たちとの関わりを深めながらますます充実したものになっている。そんな毎日を振り返り、田口さんはこう感想を語る。「私は愛知県の一宮市出身で、学生時代までは岐阜のことを詳しく知りませんでした。でも、岐阜の会社に就職して商店街の中で暮らすうちに、このまちの面白さが分かってきました。また、仕事もとても充実していて、新しいことに挑戦できる環境があります。同年代のメンバーと楽しく毎日を過ごせることに、喜びを感じています」仕事にもプライベートにも全力を注ぎ、思い描いたことを次々に形にしていく3人。彼女たちは今、このまちに新たな刺激を与える存在になりつつある。



■ 柳ヶ瀬シェアハウス

「柳ヶ瀬をたのしいまちにする株式会社」が企画したシェアハウス。入居者自身もDIYに関わりながらリノベーションを進め、2019年の11月に入居が始まった。商店街の空きビルを活用する新しい取り組みとして注目を集めている。



Living in
GIFU CITY

岐阜市で暮らす

Lifestyles of
New Local People. 02 / 5

絵を描き自然を楽しむ、日常の風景

オーストラリア・タスマニアの大学院で建築を学んだ後、絵を描くことを仕事にした大角真子さん。博物館や病院などの壁画、ウェブサイトや雑誌の誌面など、さまざまな場で創作を行ってきた。大角さんが名乗る肩書きは、「スケッチ・ジャーナリスト」。スケッチジャーナルとは英語で「絵日記」のことで、体験したことや自身の世界観を日記のように書き留めるスタイルをそう表現している。

オーストラリアから日本に戻った後、長野県を中心に活動が続けてきた大角さんは、結婚を機に2018年7月から岐阜市で暮らし始めた。アトリエとしても使える住居を探す中で見つけたのが、現在暮らす一軒家だ。「『なんてかわいい家なんだ!』と運命を感じました」。ロフトのある平屋は、天井が高く開放的。屋外では、野菜やハーブ、そして藍染めに使うアイが、賑やかに庭を彩る。家のいたるところから感じられるのが、暮らしを楽しむ“達人”の気配だ。

休日には自宅から近い百々ヶ峰を夫婦で歩くなど、アウトドアも楽しみに加わった。「気軽に行ける山や川が近くにたくさんあり、すごく素敵な環境です。今までは一日中仕事に力を注ぐタイプでしたが、暮らし自体を楽しむモードに変わりました。岐阜の暮らしがとても気に入っています」。生活する場所は、必ず何かの形で自分の表現に影響する。そう話す大角さんは、この場所から何を発信していくのだろうか。



■ 大角真子さん

2011年タスマニア大学大学院建築コース修了。2012年からオーストラリアで「スケッチ・ジャーナリスト」として活動を始める。2018年からは拠点を岐阜市に移し、精力的に創作を続けている。



■ 伊藤 維さん

伊藤維建築設計事務所代表。2008年に東京大学建築学科を卒業後、設計事務所に勤務。2014年にハーバードデザイン大学院に進む。その後スイス連邦工科大学助手などを経て、2020年に帰国。建築家として岐阜市と東京の2拠点で活動中。

Lifestyles of
New Local People. 03 / 5

世界で活躍する建築家が選んだ拠点

東京の設計事務所で経験を積んだ後、アメリカの大学院で学んだ伊藤さん。その後はアメリカやスイスの大学で教職に就きながら、国内外でプロジェクトに携わってきた。世界を舞台にした、建築家としての華々しい経歴。その一方で常に自身の根本にあったのは、地元の岐阜のようなまちへの思いだった。「『誰のために建築をするか』を考えた時、最終的にいつもたどり着くのが、岐阜にいる自分の家族や友人のような人の姿でした」。

地方のまちは東京ほど便利ではないが、人・モノ・空間の豊かで多様な『資源』にすぐアクセスできる。こういう場所ならより自由でおおらかな創作ができるのではないかと伊藤さんがそう感じたきっかけの一つが、スイスの大学教員として岐阜に関わった経験である。学生が取り組む設計課題の対象に岐阜県の自治体を選び、学生たちとともに滞在した。「地元の木を使って地元の大工さんが建物を建て、地元の人の手でケアしていく。その仕組みまでを含めてデザインを提案しました。海外の学生の真剣な提案を聞き、地域の人たちは今まで気づかなかったまちの魅力を発見できたようです。小さなコミュニティだからこそ、そうした化学反応のようなものが生まれたのだと思います」。

世界の国と日本の地方をダイレクトに結ぶことで生まれる、新たな可能性。その拠点として選んだのが岐阜市である。2020年夏に帰国・引越し、ビルの一室をリノベーションしたアトリエも完成。この場所だからこそ生み出せる建築を、世界に向けて発信していく。

人と人がつながる、写真ギャラリー

「写真を撮るだけではなく、プリントをして額装して飾る。そういう楽しみ方を若い人たちに知ってほしいという思いがありました」。2020年に写真専門のギャラリー「pieni onni」を立ち上げた、沢田ひろみさん。オープンに先立って公募展の開催を告知したところ、予想を上回る89点もの応募があったという。東京や山梨など、全国の作家から届いた作品。それらを展示すると、SNSなどで知ったお客さんが大勢訪れた。さまざまな場所から作品が届き、それを見た人が「部屋に飾りたい」と買っていく。1枚の写真に込められた思いが、この場所で受け継がれていく。ギャラリーをつくる際に沢田さんの支えとなったのが、地域の活動を通して知り合った仲間たちだ。内装や家具製作、ロゴマークのデザインなどを、地域の仲間に依頼した。「アートに対して積極的な思いを持っている人や、魅力的なお店を運営する人。そういう人たちが私のまわりにたくさんいます。人との関わりを通して今まで気づけなかった岐阜の魅力を感じるようになりました」。SNSのコメントに「#ローカルは素敵だ」というハッシュタグをつけることも多い沢田さん。このギャラリーをより魅力ある場所にするために、全力で走り続けている。

Lifestyles of
New Local People. 04 / 5

■ 沢田ひろみさん

フォトグラファーとしての創作活動や、写真教室の講師としての活動を経て、2020年に写真ギャラリー「pieni onni」をオープン。地域の活動を通して知り合った大勢の仲間が準備に関わった。

pieni onni
[図] 岐阜市清住町2-4-2大グリーンビル1F [図] 090-9193-3163





■ 川口聡さん・花子さん

夫の聡さんは岐阜市内で株式会社リービーを経営。妻の花さんは広告制作会社の取締役を務めながら、岐阜市でアフタースクールを運営。3人の子育てながら充実した毎日を送っている。

東京から移住した夫婦の子育てライフ

「東京を離れた直接のきっかけは、長女の保育園が見つからなかったことです。120人待ちという状態でした」。そう振り返るのは川口聡さんと花子さん。2012年、聡さんが起業するタイミングに合わせ、花子さんの実家がある岐阜市に移住した。二人が選んだのは、親世帯の近くで生活する「近居」のスタイル。親のサポートを得ながら、夫婦ともにフルタイムで仕事をしている。

岐阜市は保育園の受け入れに比較的ゆとりがあり、通勤距離が短いため子育ての時間を取りやすい。そうした点と併せて実感したのが、地域の一員として暮らすことの安心感だという。「東京と違って岐阜では、近所の人たちがみんな知り合いです。迷子の子がいたとしても、『〇〇ちゃんがあそこにいたよ』とすぐに伝わります。地域全体で子どもを見守っている感じがします」と花子さんは話す。

移住を機に聡さんが立ち上げたホームページ制作会社は今、順調に事業を拡大している。また花子さんは勤務先の業務と並行して、地域の児童を対象としたアフタースクールを運営し、プログラムの充実に力を注いでいる。

さまざまな場面で感じられる環境の良さが、自身のモチベーション維持につながっていると聡さんは言う。「岐阜で暮らしてみて感じたのは、都会で感じていた日常のストレスが一切ないことです。満員電車など通勤のストレスがなく、休日は自然に触れてリフレッシュできます。快適に暮らせるからこそ、毎日前向きにがんばれるのだと思います」。

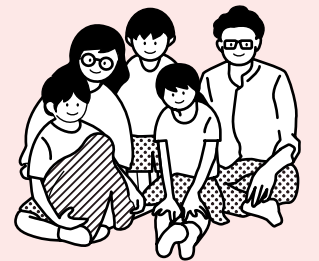
Lifestyles of
New Local People. 05 / 5

／ 川口さん夫妻に聞いてみよう！ ／

岐阜市の子育てQ & A

Living in GIFU CITY

18ページに登場していただいた川口さん夫妻に、岐阜市の子育て事情をさらに詳しく聞いてみました。子どもと一緒に利用できる施設やイベントに関する情報など、子育ての参考にしてみてください。



Q お子さんとよく行く遊び場所はどこですか？

A (聡さん) わが家がよく行くのは公園や児童館で、このエリアの児童館はほぼ制覇しています。また、小さな川で子どもたちとザリガニを釣るなど、自然に触れ合えることも魅力です。身近なところに遊び場所がたくさんあります。



公園が充実

岐阜市内には約 380 か所の公園があります。



岐阜ファミリーパーク



長良公園

Q 最近岐阜に住み始めたのですが、ママ友やパパ友ができるでしょうか…？

A (花子さん) 岐阜市は市民主体のイベントが盛んなので、まずはそうしたイベントに参加してみたいかでしょうか。「メディコス」に行くといろんなイベントの案内がありますよ。岐阜市はそれほど広くないので、SNSなどを通して「実はあの人の知り合い」みたいな感じで人とつながりやすいと思います。



“メディコス”こと みんなの森 ぎふメディアコスモス

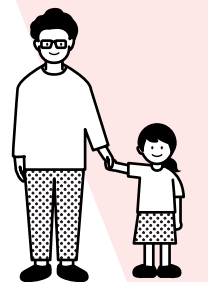


市立中央図書館、市民活動交流センター、多文化交流プラザからなる複合文化施設。ホールやギャラリー、カフェなどもあり、子どもからお年寄りまでさまざまな人が集まり、学び、つながる、市民の憩いの場です。

〔住〕 岐阜市司町40-5
〔営〕 9:00～21:00 (市立中央図書館は20:00まで)
〔休〕 毎月最終火曜日(祝日の場合は翌日)、12月31日～1月3日 ほか
〔問〕 058-265-4101 (総合案内)

Q 夫婦で仕事を続けるためのポイントがあれば教えてください。

A (聡さん) 男性もしっかり育児をすること！お父さんも育休を取って育児に専念してみると、子育ての大変さが身に染みて分かると思います。私も育休を経験しましたが、子育てに対する意識がガラッと変わりますよ。



A (花子さん) 可能であれば、やはり親世帯との近居はおすすめです。自分や夫がどうしても保育園に迎えに行けない時などは、本当に助かっています。この先、働くお母さんのロールモデルになる人がもっと増えて、一緒に子育てをがんばろうと思ってもらえたら良いと思っています。

地域で支える子育て支援

ぎふファミリー・サポート・センター

子どもの預かりや送迎など、育児の援助を受けたい人と、行いたい人を会員とする、地域の相互援助活動を推進しています。

〔問〕 事務局 (NPO法人 グッドライフ・サポートセンター)
058-295-3420

Find Your Something Special in Our City.

注目のお店や歴史スポット、ものづくりを体験できる工房など、

岐阜市の魅力的な場所をめぐるページです。

岐阜のまち歩きは、目的地に着くまでの「途中」も楽しい。

気になるお店に立ち寄ってみたり、見知らぬ路地を歩いてみたり。

そこに待っている驚きや発見も、まちをめぐる醍醐味です。

岐阜の文化や観光を支える人たちは、みんな個性豊かで情熱的。

二度、三度会って話したくなるような、

素敵な出会いを楽しんでください。

Visiting
GIFU CITY

岐阜市をめぐる

子どもに贈る学習机を自作する人も
「自分の暮らし」をつくる、木の工房

木工専門の工房「ツバキラボ」には、さまざまな依頼が寄せられる。

ある時電話をかけてきたのは、「自宅の桜の木を使って家具を作ってほしい」という依頼者。その桜は娘が生まれた時に植えた記念樹だが、成長するにつれて隣の敷地に葉が散るようになり、どうしても切らなくてはならなくなったという。そのまま廃棄するのはしのびなく、ツバキラボに相談したそうだ。

「工房の存在を知って、『何とかしてくれるかもしれない』と思われたそうです。ご希望の家具に加工してお返しすることにしました」と話すのが、代表の和田賢治さん。大切な記念樹は、形を変えて家族のもとで生き続けることになった。

ツバキラボの特徴の一つは、木製品の製造を小ロットで受け付けていること。小売店の経営者などから「店で売るオリジナルの木製品を開発したい」といった相談を受け、雑貨やアウトドア製品などを製作することも多い。そしてもう一つの柱となる事業が、一般向けの木工シェア工房の運営だ。数日間のレッスンで機械の使い方や木工の基本を指導し、終了者には自分の作りたいものを自由に作れる環境を提供している。

たとえば今、ある男性の会員が作っているのは、まもなく小学生になる我が子にプレゼントする学習机。数カ月がかりの製作が終わりに近づいた時、塗料を塗る男性の表情は何とも言えないほどうれしそうだったという。

「自分の暮らしを自分の手でつくる。その喜びを多くの人に感じてほしいと思っています」

熱心に工具を操る会員たちに、和田さんの気持ちはしっかりと伝わっているようだ。

岐阜市で生まれ育ち、アメリカの大学で学んだ和田さん。28歳まで勤めていたのは自動車メーカーで、物流システムを開発して海外の工場に導入する仕事に関わっていた。「学ぶことの多い仕事でしたが毎日があまりにも忙しく、次第に気持ちが追いつかなくなりました。もっと自分の暮らしを中心に置いた生き方がしたいと思うようになりました」

仕事で悩んでいたある時、和田さんは自宅で一台の机に目を留めた。それは高校生の頃に父親から譲り受けた学習机。長く使って古くなっていたが造りはしっかりしていて、量販

店で買った家具が並ぶ室内で、その机だけがまったく違う存在感を放っていた。

「それを見た時、自分が作りたいのは、“こういうもの”だと思ったのです。大量消費の世の中にも、自分のこだわりや誇りを持てるようなもの。それを作れる人になりたいと思い、木工の世界に入ることを決めました」

木工の職人を養成する学校に2年間通い、美濃市にある岐阜県立森林文化アカデミーで教員として5年間働いた後、木工シェア工房を設立。起業から数年、木工を通して地域と深く関わる中で、次に取り組むべき課題も見えてきたという。それは、街路樹や公園の木、個人宅の庭木など、地域で手に入る木を有効に活用するための仕組みづくりである。「現状では自宅の庭木を伐採した時、お金を払って産業廃棄物として処分してもらう必要があります。それを資源として活かすことができれば、無駄になっていたものに価値を与えることができます」

木工に適さないとされる枝の部分も可能な限り材料として使い、細い枝や削りかすはストーブの燃料などのエネルギーとして利用する。また、周辺地域に製材業者が不足している状況に対応するため、木材の製材や乾燥ができる機能をツバキラボが持つ。地域の資源を地域内で循環させる仕組みを作るために、仲間と情報を共有しながら準備を進めている。

今まで人の手に委ねていたことを、自分の手元に引き寄せる。身の回りにある課題を見つめ、小さなことから変えていく。自分の暮らしを自分でつくる人が増えていけば、その人たちがつながり合って、まちはもっと元気になる。自然豊かな椿洞の地で、和田さんはそんな未来を思い描いている。



■ 合同会社 ツバキラボ

木工シェア工房の運営と、木製品・家具の製造を行っている。代表の和田賢治さんは、高校時代に1年間にわたり単身ミャンマーで生活し、その後アメリカの大学で学ぶなど、多彩な経歴の持ち主。海外生活で身につけた価値観や行動力が、現在の工房運営にも役立っている。

☎ 岐阜市椿洞1228-1 ☎ 058-237-3911



Find Your
Something Special
in Our City

01 / 7



■ イエティ ファゼンダ コーヒー

スペシャルティコーヒーを自家焙煎し、独自のブレンドコーヒーとして提供。「サンデービルディングマーケット」に第1回から参加。打出さんは2020年2月に開催された「柳ヶ瀬コーヒーカウンター」の企画者でもある。



常連出店者から見た、サンビルの魅力

2014年の9月に始まった、柳ヶ瀬商店街の「サンデービルディングマーケット（以下、サンビル）」」。その第1回目から出店しているのが、滋賀県彦根市の「イエティ ファゼンダ コーヒー」である。店主・打出拓さんは、サンビルの印象をこう話す。「これまで出店した他県のマルシェよりも、店ごとの個性やこだわりの強さを感じます」。他の店のディスプレイや売り方などで参考になるものがあれば、アレンジして自分の店に取り入れる。そうして新しいことを試す面白さを感じるという。打出さんがこだわってきたのは、オリジナルブレンドコーヒーで店の特色を表現すること。その味を求めて毎回訪れるファンは多く、サンビルに欠かせない店の一つとなっている。「運営している人たちの魅力も出店を続けている理由の一つです。新しいことに対していつも前向きで、一緒にやっていて楽しさを感じます」。岐阜市の関係人口の一人としてまちに関わる打出さん。ささやかな楽しみは、柳ヶ瀬の細い路地を歩くことだという。表通りから分け入った場所にある隠れた名店をいくつも見つけてきた。「新しさやきれいさといった表面的なものではない、まちの魅力。そういうものに会える楽しさがあります」。

Find Your
Something Special
in Our City. 02 / 7

人を変化させる、ファッションの力

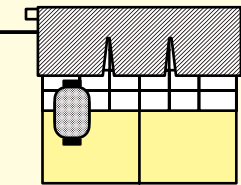
知的でリラックスできるスタイリングを提案する、セレクトショップ「HAMMOCK」。商品以外のお客さんの目当ては、店主・大野峰志さんとの交流だ。ある時来店したのは、「おしゃれになって彼女をつくりたい」という男性客。その人に対して大野さんは、数シーズンにわたってアドバイスを続けることを決めた。粘り強く店に通ったその男性はどんどんおしゃれになり、周囲の人が注目するほど魅力的な存在になっていったという。「洋服には、見た目の印象を変えるだけでなく、人に自信を与える力があると思います。そうしたお客様の変化を目の前で見るとやりがいを感じます」。岐阜は、繊維産業の長い伝統があるまちだ。ファッションというコンテンツを活用して、今までと違った形でまちの魅力を発信できるのではと大野さんは言う。「たとえば世界的なブランドの縫製を岐阜市の業者が長く手がけている。そういう産業としてのベースがあり、洋服を楽しむ文化が育っています。ショップの魅力をコンテンツ化したり、他でやっていないようなイベントを行ったりして、ファッションのまちならではの楽しみ方を提案すれば、洋服に興味がある人たちをもっと惹きつけられると思います」。



■ HAMMOCK

2012年6月にオープンしたセレクトショップ。店主の大野峰志さんは店舗経営のかたわら、イベントでスパイスカレーの店を出店するなど、さまざまな形で「自分のやりたいこと」を追求している。

☎ 岐阜市長良福光2406-1 鮎原コーポID ☎ 058-215-0866



世界のタマミヤ

Find Your
Something Special
in Our City. Visiting GIFU CITY

世界に魅力を発信！玉宮地区の「今」

「いま岐阜で一番アツい場所は？」と聞かれたら、この界隈をイメージする人も多いのではないだろうか。JR岐阜駅にほど近い玉宮地区。年間約300万もの人が訪れるこの地区は、今や柳ヶ瀬と並ぶ観光地としてその名を知られている。居酒屋、バー、洋食店など約280店のうち、実に150店以上が路面店。「顔の見える店」が並ぶ賑やかさが、まちの風景を特徴づけている。現在進められているのが、“タマミヤ”の名を日本全国へ、そして世界へ発信することをめざす、「世界のタマミヤプロジェクト」だ。独自のイベントや地元の食材を使ったメニュー開発、定期的な清掃活動などを通して、さらなる魅力創出に取り組んでいる。おいしいお酒を飲みたい時も、友人と楽しく語りたい時も、まずはタマミヤへ！まち全体があなたを歓迎してくれるはずだ。



■ 玉宮地区

玉宮地区の元の姿は、戦後発展した繊維問屋街。バブル崩壊後に業態変化が起こり、飲食店が増加。各店はライバル同士でありながら、「一緒にまちを盛り上げよう」という強い仲間意識で結びついている。

異国を旅するような、一皿との出会い

JR岐阜駅前の問屋街。少し静かな場所に、三日月バルという10席ほどの店がある。「このあたりの賑やかすぎないところが隠れ家っぽくていいかな、と思っています」と話すのが、店主の福地未佳さん。十数年の修行期間を経て、2013年にこの店を開いた。南インドのミールスという定食スタイルのカレーや、中東やフランスなどの料理。世界各地の料理を楽しめるこの店で「食事を通して旅の気分を感じていただけたら」と思いを語る。訪れた国の思い出を語る人や、料理を通して特別な気分を味わいに来る人、一人で静かに本のページをめくる人。多様な人が集う店内には、日常と切り離された独特の空気が漂う。「お客様に読んでいただけるような料理の説明文を添えるなど、食事や会話を静かに楽しんでもいただける工夫をしています。自分がおいしいと思えるものを作り、『おいしいね』と言っていただける。月並みかもしれませんが、その喜びが私の原動力になっています」。新型コロナウイルス感染症の影響も小さくない中、さまざまな取り組みによってまちを盛り上げようとしている玉宮地区。その中で三日月バルは、ひととき強い個性を放っている。



■ 三日月バル

岐阜市出身の福地未佳さんが2013年5月にオープンした隠れ家のようなバル。「まち全体が楽しい場所になってほしいですね」と、玉宮地区の今後に期待を寄せる。

☎ 岐阜市住田町2-20 ☎ 058-264-2313



Find Your
Something Special
in Our City. 03 / 7

Find Your
Something Special
in Our City. 04 / 7

Visiting
GIFU CITY

岐阜市をめぐる



■ 長良川てしごと町家 CASA

岐阜和傘の専門店として2018年5月にオープン。店長の河口さんはこの店で岐阜和傘のブランド化と産業支援に力を注ぐほか、NPO法人ORGANの職員として「長良川デパート」などの運営にも携わっている。

住 岐阜市湊町29
 問 090-8335-9759
 (和傘CASA)



伝統文化を守る、岐阜和傘の専門店

和傘専門店「長良川てしごと町家CASA」の店頭に並び、華やかな和傘。その美しさに惹かれ、県外から店を訪ねる人も多いという。日本一の生産量を誇る岐阜産の和傘。しかしその事実、最近まで多くの人に知られていなかった。「岐阜で作られた和傘の多くが、他県のブランド名で販売されていました。そのため岐阜和傘の名前が浸透していなかったのです」と教えてくれたのが、店長の河口郁美さん。2018年の開店以来、岐阜和傘のブランド化に力を注いできた。河口さんが特に大切にしてきたのが、和傘問屋の経営者や職人との関わり。長い冬の時代を支えてきたこれらの人々は当初、「和傘は売れないよ」などと口にしていたが、心のうちでは河口さんたちの挑戦を誰よりも喜んでいて。和傘づくりはたくさんの職人の分業によって成り立っており、一人の力で完成させることはできない。その間にある苦労の跡を、出来上がった和傘から感じるのだと河口さんは言う。「職人さんと問屋さんとの関係が近く、その思いを感じているからこそ、出来たての和傘を手にした時はいつも感動します。和傘には、和紙の上に雨が落ちる音や、日傘をさした時に木漏れ日が映る様子など、洋傘にはない魅力があります。それをぜひ多くの方に楽しんでいただきたいと思います」。

未来に受け継ぐべき文化を守りたい。そして一人のファンとして、和傘に関わる人たちを応援したい。その気持ちが、河口さんを動かしている。

Find Your
Something Special
in Our City 05/7



Find Your
Something Special
in Our City 06/7



長良川の鵜飼の船頭に挑戦した大学生

大学生の新城愛優さんが長良川の鵜飼の船頭としてデビューしたのは、2019年のこと。その様子はテレビなどでも紹介され、各方面から注目を集めた。「鵜飼は若者にとって身近なものではなかったと思うので、私が船頭をすることによって少しでもイメージが変わればうれしく思います」。

船頭の仕事は、棹さおを使った操船だけでなく、観覧船の準備や乗客への対応など多岐にわたる。その中でも新城さんが特に力を入れているのが、乗客への説明業務だ。留学経験などで培った語学力を活かし、海外から来た乗客に英語で鵜飼の説明をすることもある。鵜飼について学びその魅力を伝えていく中で、新城さんの気持ちの中に変化が生じてきたという。「今までは自分の地元である岐阜の魅力に改めて意識する機会がありませんでした。でも、船頭の仕事を経験して岐阜の良さを見つめ直し、地元をもっと好きになることができました」。船の出航を待つ夕暮れ時、沈んでいく夕日を見るのが好きだという新城さん。「夕日が長良川に映る様子がすごくきれいです。鵜飼だけでなく、周囲の景色や街並みの美しさも含めて岐阜を楽しんでほしいですね」と笑顔で話してくれた。

■ ぎふ長良川の鵜飼

1300年以上にわたり、脈々と受け継がれてきた「長良川の鵜飼」。織田信長をはじめとする時の権力者たちから手厚く保護され、岐阜市の誇る伝統文化として守られてきた。長良川の鵜飼漁の技術は、国の重要無形民俗文化財に指定されている。

岐阜市鵜飼観覧船事務所
 住 岐阜市湊町1-2
 問 058-262-0104



老舗旅館「十八楼」の“蔵の湯”

■ 長良川温泉

金華山の麓、長良川沿いに7軒の旅館やホテルが立ち並び「長良川温泉」。鉄分を多く含む茶褐色の湯が、体を芯から温める。周辺では長良川の鵜飼の観覧や古い町並みが残る川原町の散策、斎藤道三や織田信長ゆかりの岐阜城の観光なども楽しめる。

岐阜長良川温泉旅館協同組合
 住 岐阜市長良福光2610-4 問 058-297-2122

長良川温泉若女将会
オリジナルブレンドコーヒー

Visiting
GIFU CITY

岐阜市をめぐる



信長期の天守台と見られる石垣。日本最古の天守がここに築かれた可能性があるとして、大きな注目を集めている。

■ 角原広康さん

大学時代は考古学を専攻。現在は会社勤めのかたわら「未公開遺構・石垣案内人」として活動し、遺構の魅力を広く発信している。

■ 岐阜城

金華山の山頂に位置し、古くは「稲葉山城」と呼ばれ、斎藤道三が居城とした。その後、明智光秀の主君・織田信長が攻略し、「井口」と呼ばれていた地名を「岐阜」に、「稲葉山城」の名を「岐阜城」に改め、天下統一の拠点とした。山麓居館や自然地形を含めた金華山一帯が「岐阜城跡」として、国史跡に指定されている。

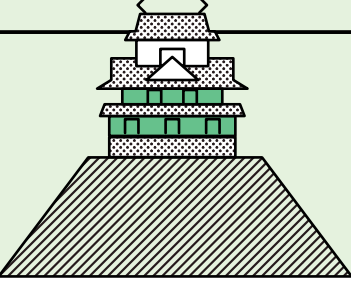
〔住〕岐阜市金華山天守閣18 〔画〕058-263-4853

日本最古の天守は、岐阜城だった！？

2019年10月から翌年1月にかけて岐阜市が行なった金華山の発掘調査で、織田信長の時代の天守台と見られる石垣が発掘された。「大きな石の間に小さな間詰石を丁寧に詰めていることなどが、他の信長期の石垣と共通しています」と解説してくれたのが、石垣に詳しい角原広康さん。これまで、日本の近世城郭の先がけは安土城だと言われてきたが、今回発掘された石垣が信長時代の天守台だとしたら、その名にふさわしいのは岐阜城ということになる。「この地域で城に石垣が使われるようになったのは、土岐氏や斎藤氏の時代です。その技術が信長の時代に発展し、近世城郭の元となる天守が岐阜で築かれた。そう考えるのが自然だと思います」。

角原さんにとって石垣の魅力とは、当時のものが残ったオリジナルであること。石には年号も人名も書かれていないが、実物を目の前で見れば自ずと想像が膨らむと、その魅力を語る。「まだ明らかになっていないことをどう解釈するか。その見方は人によって異なります。正解がないからこそ、自分で考える面白さがあるのだと思います。ちなみに、いろいろな石垣の積み方がある中で私が特に好きなのは、一番古いタイプの『野面積み』という積み方。野性味溢れる積み方に魅了されます」。続きは、角原さんがガイドを務める金華山のツアーにて。きっと、石垣との対話が人生の楽しみに加わるだろう。





レンタサイクルで巡る

“道三・信長・光秀”の世界

Experiencing the History of GIFU CITY

ぎふ・まちなかレンタサイクル
岐阜市のまちなかを巡るには自転車の貸出サービス「ぎふ・まちなかレンタサイクル」（有料）がおすすめ。JR岐阜駅や岐阜公園など、市内6カ所（2021年4月から5カ所）にポートが設置されています。好きなポートで借りて、好きなポートに返却することができます（一部車種を除く）。

〔圖〕（一財）岐阜市にぎわいまち公社 058-266-1377
岐阜市観光コンベンション課 058-265-3984



【10】川原町界限
川湊近くに発展した地域。信長や道三は物流の中心となる長良川に着目して町を整備した。独特の白木格子が続く美しい町並みが見どころ。
〔住〕岐阜市湊町、玉井町、元浜町



【11】崇福寺
信長が岐阜に入城した際、菩提所として保護した寺。本能寺の変で信長・信忠父子が光秀に討たれると、その遺品が位牌とともに寺内に安置された。
〔住〕岐阜市長良福光2403-1



【12】道三塚
1556年（弘治2年）の長良川の戦いで敗死した道三の遺体は、崇福寺の南西に埋葬。1837年（天保8年）に現在の場所に移され大切に保護されている。
〔住〕岐阜市道三町



【13】鷺山城跡
土岐頼芸の居城や道三の隠居城などと伝えられ、発掘調査で堀と土塁の痕跡が見つかっている。
〔住〕岐阜市鷺山



【1】黄金の織田信長公像
岐阜市の玄関口であるJR岐阜駅の北口に、市制120周年を記念して設置。像の高さは台座を含めて約11mになる。
〔住〕岐阜市橋本町1丁目



【2】円徳寺
織田信長や嫡孫の秀信ゆかりの寺。「楽市に、市制120周年を記念して設置。像の高さは台座を含めて約11mになる。
〔住〕岐阜市神田町6-24



【3】濃姫遺髪塚
濃姫（帰蝶）は本能寺で亡くなり、家臣が岐阜に遺髪を持ち帰り、ここに埋葬したと伝わる。
〔住〕岐阜市不動町 西野不動尊前



【9】岐阜城
天守からは、360度の大パノラマを一望でき、戦国時代を駆け抜けた歴代城主や武将たちの気分を味わうことができる。
〔住〕岐阜市金華山天守閣18



【8】岐阜公園（織田信長公居館跡）
岐阜公園内にある信長公居館跡。宣教師ルイス・フロイスが「地上の楽園」と称した。発掘調査では、瓦、陶磁器のほか、岩盤を背景にした庭園跡が見つかった。
〔住〕岐阜市大宮町1丁目



【7】岐阜市歴史博物館
信長の時代の楽市場の様子を復元したコーナーがあり、反物屋では戦国時代の衣装を着る体験ができる。
〔住〕岐阜市大宮町2-18-1



【6】岐阜大仏（正法寺）
日本三大仏の一つで、日本最大の乾漆大仏。1832年（天保3年）に、38年の歳月を費やして完成した。
〔住〕岐阜市大仏町8



【4】岐阜善光寺
武田信玄が信州の善光寺から甲府に移した善光寺如来を、岐阜城主となった信長が岐阜に移し、創建された。
〔住〕岐阜市伊奈波通1-8



【5】常在寺
斎藤家の菩提寺。道三とその父が二代にわたり美濃国を制する拠点とした寺。
〔住〕岐阜市梶川町9

Find Your
Something Special
in Our City.

07/7

Sow Seeds for The Future of Food.

「おいしそう!」と思わず声が出そうな、美しい一皿。

食を楽しむまちとしての岐阜市の魅力を、

ギュッとまとめてご紹介します。

無農薬・有機栽培の野菜で食の安全を追求する生産者や、
伝統を守り続けるワイン醸造所。

新型コロナウイルス感染症の影響で厳しい状況にある中、
新しい道を模索する飲食店の店主さんたち。

食という切り口から、岐阜の今を見ていきましょう。



Sow Seeds for
The Future of Food 01 / 3

創造したものすべてを、ひと皿に 食の未来へ種をまく、農家兼料理人

「大学を卒業した時、僕は就職をしなかったんですよ。海外に行けば何とかなるんじゃないかと思い、英語もしゃべれないままカナダに行きました」

農家であり料理人。田中大士さんの原点は、カナダで過ごした日々である。日本では得られない何かを見つけようと異国の地で奮闘し、フレンチレストランなど複数の店で料理を学んだ。そして最後に働いたのが、「Farm To Table（農場から食卓へ）」のスタイルを実践するレストラン。そこでは、契約農家から届くオーガニック食材を使って毎日異なるメニューを創作していた。「この食材があるから、何を作るか」と、食材から発想する料理。この店で経験が、料理人としての田中さんのベースになった。

しかし、カナダに渡って10年以上が過ぎた時、田中さんに転機が訪れる。父親が急逝し、急きょ帰国することになったのだ。実家は農家だが、当時の田中さんに農業の経験はない。地元に戻って無農薬・有機栽培の農業を志したが、肝心の土づくりの知識がなく思うように野菜が育たなかった。堆肥づくりの先生を何とか見つけ、その指導を受けながら試行錯誤を続けた。

「野菜を収穫できるのは年に一度。失敗してもやり直せるのは翌年になります。しかも自然環境は毎年同じではないので、次の年に必ず結果が出るとは限りません。無農薬にこだわって野菜をつくるのは特に大変で、数年であきらめて農業をやめてしまう人もたくさんいます」

「育てる難しさ」とともに大きな壁となるのが、「売る難しさ」である。東京などの都市部と比べると、地方では無農薬野菜の需要は大きくない。手間をかけて無農薬野菜を栽培しても、その手間に合った価格で売ることは難しい。農家にとっては厳しい現状だが、その中でも田中さんは自分の野菜にこだわりを持ち、新たな販売先の開拓にも力を注いでいる。

帰国当初は野菜づくりに力を注いでいたが、後に料理人としての活動を再開。現在はレストランなどに出張する形で腕を振るっている。フレンチをベースにした、創作性の高いコース料理。野菜の栽培から料理を盛りつけるまでのすべてのプロセスを自分の手で行う。

「種をまく時から、その野菜がどんな料理になるかをイメージします。言うなれば、『種からの料理』です。そして最後にメニューを考える時は、『この食材の組み合わせでこういう味になるのでは?』というひらめきを大切にしています」

初めから結論を決めて料理するのではなく、偶然の結果を取り入れる。料理とは、正解のない世界。だからその日に採れた食材からヒントを得て、瞬間のアイデアで可能性を追求する。偶然性を大切にするのは、野菜づくりも同じだ。現在、一部の畑を使って試みているのが、人の手を一切加えないユニークな栽培方法。一度種をまいた後は畑を放置し、自然に芽が出て育ち、再び種が落ちて芽が出るのを待つ。そうして自然な状態で育った野菜は、雑草にも負けない強さがあるという。

田中さんが料理に使う野菜はほぼ自家農園のものだが、他所から食材を取り寄せるとしても、輸送による環境負荷を考えて近隣エリアで採れたものを使う。また、通常の形で出荷できない規格外野菜を発酵食品に加工しているほか、チーズや油、さらには料理を盛るお皿まで、どんなものでも自分の手で作る。

「カナダで出会ったある有名なシェフは、日本食に興味を持って経節まで手づくりしていました。そういう人たちに影響を受け、何でも自分で作るようになりました。新しいことをする時は失敗ばかりですが、挑むことに意味があると思っています」

一人の力は限られるが、その考えに共感して一緒に行動する人が増えれば、できることは少しずつ大きくなる。農業と料理を通じた情報発信。その拠点として、築100年の自宅を改装してレストランにする計画も進行中だ。食の未来へ種をまく男。その今後から目が離せない。



■ TANAKA FAMILY FARM

無農薬・有機栽培の野菜を育てるとともに、「Farm To Table」のスタイルで自家栽培の野菜を使ったコース料理を創作。野菜の販売、料理教室やワークショップの開催、ケータリングなど、多様な形で農業と料理に関わっている。

☎ 岐阜市小野482 ☎ 058-239-1284

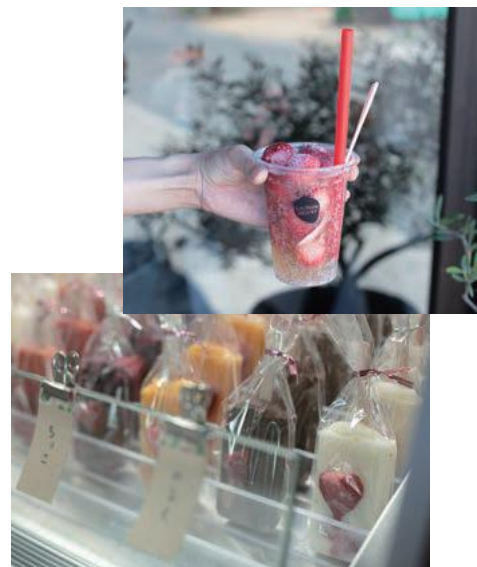


6次産業化を成功させた、熱き生産者

岐阜市岩田にある「クラウンベリー」は、いちご農家が営むスイーツショップ。糖度の高い完熟のいちごを毎朝収穫し、フルーツサンドやドリンクなどの商品に加工して販売している。代表の仙石知詳さんは、30代の時に脱サラして就農したという経歴の持ち主。スーパーマーケットのエリアマネージャーをしていた時に農業や食のあり方を考えたことが、就農のきっかけになった。「当時、店に並ぶ野菜や果物の中に岐阜県産のものが少ないと感じていました。地域の農業について考えるうちに、自分が生産者になって岐阜の魅力を発信したいと思うようになりました」。

就農から数年後には自らの店を立ち上げ、6次産業化（1次生産者が商品の加工・販売までを行うこと）へと舵を切った。「自分が作ったものを目の前でお客様に召し上がっていただける。リアルな反応を感じられることに喜びを感じます」。インスタ映える商品がSNS上で人気を呼んだのも、当初からのねらい通り。今では6次産業化の成功例として、県外の関係者からも注目を集めている。

早朝の収穫作業から始まり、店を閉店するまでノンストップで働く毎日。生産から販売までのすべてを手がけることは決して容易ではないが、「挑戦せずに後悔するよりも、何かを求めて挑むのが私のスタイル。これから120%の力で走り続けます！」と力強く話す。いちごに賭けた生産者は、自分の道を熱く突き進んでいく。



■ いちご農園 クラウンベリー

完熟するまで茎で実らせたいちごを使い、人気商品を次々に開発している。代表の仙石知詳さんは、農業を通じた岐阜の魅力発信や耕作放棄地の問題など、地域の農業をめぐるさまざまな問題に関心を寄せている。

☎ 岐阜市岩田西1-645 ☎ 058-243-5515

Sow Seeds for
The Future of Food 03 / 3



Sow Seeds for
The Future of Food 02 / 3

老舗ワイナリーが未来に受け継ぐもの

「長良天然ワイン醸造」が、ぶどうの栽培とワインの生産を始めたのは、昭和の初め。それから長い間、農薬不使用、亜硫酸無添加、自然酵母発酵のワインをつくり続けてきた。初代の孫にあたるのが、現在の経営者である林真澄さんだ。30歳過ぎまで百貨店でバイヤーの仕事をしていたが、父親の急逝によって人生の決断を迫られたという。「父が亡くなった時にワイナリーを閉めるつもりでしたが、タンクの中には父が仕込んだワインが残っていました。お客様にも背中を押していただき、自分が継ぐことを決めました」。

付き合いの古いお客さんから「味が変わった」などと指摘されることもあったが、知り合いのワイナリーに教を請うなどして貪欲に技術を吸収した。父親が残したワインを飲みながら、発酵の進め方やブレンドを変えるなど、試行錯誤を続ける日々。その中で感じるようになったのが、ワインづくりの本質的な面白さである。「ワインというのはつくり続けるうちに、風味も香りもどんどん変化していきます。自然を相手にするので大変なことも多いですが、やってみると面白い仕事です」。

岐阜を代表するワイナリーとして、県内外のファンの期待に応え続けてきた林さん。新たにワイナリーを始める人も出てくる中、アドバイスを求める若い醸造家に対してもサポートを惜しまない。林さんが守ってきた岐阜のワイン文化は次の時代へと受け継がれようとしている。



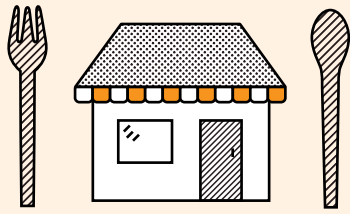
■ 長良天然ワイン醸造

「長良天然ワイン醸造」のルーツは、日本酒の量り売りをしていた小売店。昭和初期にワインの生産を始めた。現在、自家農園と契約農家が栽培したぶどうを使って生産している。

☎ 岐阜市長良志段見106 ☎ 058-232-4750

A Taste of
GIFU CITY

岐阜市で味わう



A Taste of Gifu City

岐阜市で味わう

新型コロナウイルス感染症の影響を特に強く受けているのが飲食店です。岐阜市の飲食店も例外ではなく、各店が感染予防の徹底やテイクアウトメニューの充実などに取り組み、厳しい状況乗り越えようとしています。そうした中で、店主さんやスタッフの皆さんの支えになっているのが、お客さんの笑顔や励ましの言葉です。おいしいものを食べて笑顔になるために、そして「おいしい」というひと言を伝えるために、ぜひお店に足を運んでみてください。



チキンカレー(サラダ付) 1,080円(税抜)

人気メニューは、数種類のスパイスとヨーグルトにつけ込んだ鶏肉をトマトで煮込んだオリジナルのチキンカレー。幅広い年代のお客さんに親しまれています。田園風景にぼつんとたたずむこの店で、非日常の雰囲気とおいしい料理を提供するのが、店主の古田さん。「コロナ禍で何かと気苦労も多いですが、一緒に乗り切っていきましょう!」と語ってくれました。



■ カフェとカバン

住 岐阜市三輪宮西269
電 058-229-5800
営 9:00~17:00
休 木曜・金曜
◎ @cafetokaban



初恋レモンケーキ350円(税抜) プレミアムティラミス 560円(税抜) キャロットケーキ 460円(税抜)

2019年11月に新装開店したのが、洋菓子店「テト」。世界各地の上質な材料を、自由な発想と確かな技術によって自在に組み合わせ、おいしくて楽しいお菓子を提供しています。2020年にコロナの影響で営業自粛していた際も、通販は継続。「どんな状況でもお客様にとって楽しい店をめざし、精進していきます!」と店主の古野さんは力強く語ります。



■ theé et toi.[テト]

住 岐阜市羽根町12-3
電 058-207-8549
営 12:00~16:00
休 日曜・火曜
◎ @the_et_toi



ツバメわらび(10切入)939円(税込)

2020年に開店10周年を迎えた、ツバメヤ柳ヶ瀬本店。「たくさんの方に柳ヶ瀬に来ていただき、にぎやかなまちになってほしい」という思いはそのままに、柳ヶ瀬バス停前に店舗を移転し新たなスタートを切りました。店の名物が、わらび餅に香ばしい深煎りきな粉をまぶした、「ツバメわらび」。これからも、素材を大切にしたツバメヤらしいお菓子を届けていきます。



■ ツバメヤ柳ヶ瀬本店

住 岐阜市神田町4-13
電 058-265-1278
営 9:00~20:00
休 月曜
◎ @tsubameya0828



HIFUMI定食 1,150円(税抜)

モーニングでは、岐阜県産の小麦粉を使ったベーグルのフレンチトーストや地元のロースターのコーヒーを使用。ランチでは魚の定食やインド式のビーガンカレーなどを提供しています。「コロナの影響で困難な時期に応援くださるお客様には本当に感謝しています」と、話すのが店主の古澤さん。地産地消と無化調の料理にこだわり、元気を支える食事を手づくりしています。



■ cafe HIFUMI

住 岐阜市長良福光2406-12
電 080-1611-5347
営 水〜金 9:00~15:00
土日 8:00~18:00
休 月曜・火曜・第4日曜
◎ @cafehifumi



特製担々麺 900円(税抜)

2020年6月、岐阜市文化センターの1階にオープンしたアジア料理のお店です。緑に囲まれた金公園の一角で、開放的な雰囲気の中で食事を楽しめます。ランチのメニューは、担々麺や海南鶏飯などの麺飯料理や飲茶のコース。夜は小皿料理のアラカルトや中国広東料理をベースにしたコース料理などを味わえるほか、じっくり落ち着いてお酒を楽しむこともできます。



■ 亜細亜小皿料理 green yang

住 岐阜市金町5-7-2
電 058-265-3458
営 9:00~22:00 ※変動あり
休 月曜
◎ @green_yang



バスクチーズケーキ 430円(税抜) ビスタチオのチーズケーキ 450円(税抜)

「元々ケーキの製造卸をしていましたが、小売店としてリニューアルするにあたり、大好きなチーズケーキ専門店にしようと決めました」。身近な「おやつ屋さん」として、地元のお客さんに愛されるチーズケーキマニア。20品以上のチーズケーキのほとんどがシンプルな定番系の商品です。長く愛される商品を心を込めて作り続けています。



■ チーズケーキマニア

住 岐阜市茜部菱野1-54
電 058-275-8631
営 10:00~18:00 ※売り切れ次第終了
休 火曜・水曜
◎ @cheesecakemania



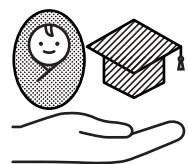
シャインマスカットサンド 800円(税込) みかんサンド 400円(税込)

「SANDS」は、2020年6月にオープンしたサンドイッチ専門店。一番のこだわりポイントはクリームで、研究を重ねて生クリームとカスタードの絶妙な配合にたどり着いたそうです。「これからも皆様に満足していただける商品を作っていきたいと思います」と、チーフの澤田さん。ボリューム満点の「バナナチョコサンド」などを求めるお客さんで店内はいつも賑わっています。



■ sando no meshiyori SANDS

住 岐阜市八幡町37-3
電 090-7029-3100
営 10:00~17:00 ※売り切れ次第終了
休 水曜
◎ @sands.3100



こどもファーストのまち 岐阜市

未来を担う子どもたちのことを第一に考えた取り組みを進めている岐阜市。幼児教育をはじめ、子育て世帯が安心して暮らせる環境づくりなどに力を入れ、子どもたちがのびのびと育つまちを目指しています。

産婦健康診査

産後は心身の不調をきたしやすいため、産後うつなどの予防など、お母さんの心や体の健康のために、出産後8週間以内の産婦を対象に健康診査の費用を助成しています。

☎ 岐阜市健康増進課
058-252-7193

紙おもつ回収サービス

市内の公立保育所では、園児の使用済み紙おもつを保護者が持ち帰るのではなく、保育所で回収しています。

☎ 岐阜市子ども保育課
058-214-7825

ぎふし子育て応援アプリ

子育て支援に関する情報をはじめ、施設やイベントなど、子育てに必要な情報をいつでもどこでも手に入れることができる岐阜市公式アプリです。

☎ 岐阜市子ども政策課
058-214-2397



体調不良の子どもを病児保育施設へ送迎

市内保育所(園)や小学校に通っている満1歳～小学3年生までの子どもを対象に、保育所(園)や小学校で体調不良になった際、病児・病後児保育施設の看護師が保護者の代わりに迎えに行き、診察後、一時的に預かる制度があります。

※事前登録が必要です

☎ 岐阜市子ども保育課 058-214-7826

ぎふし共育都市プロジェクト

夫婦が共に子育てを楽しめるまちを目指して、男性の主体的な家事・育児参画を推進する「ぎふし共育都市プロジェクト」を実施しています。主に出産を控えたパートナーを持つプレパパ、そして未就学の子どもの持つパパを対象に、もっと育児を楽しんでもらうための多彩なプログラムを展開しています。



ぎふし共育都市プロジェクト



☎ 岐阜市子ども政策課 058-214-2397

施設紹介

母子健康包括支援センター

市内3カ所にある市民健康センター内に、母子の健康を妊娠中から子育て期間までを切れ目なく支援する専用窓口を設置し、専任の職員(保健師)が妊娠・出産・子育てに関する幅広い相談に応じます。

☎ 岐阜市中母子健康包括支援センター 058-252-0631
岐阜市南母子健康包括支援センター 058-271-8130
岐阜市北母子健康包括支援センター 058-233-3116

岐阜市子ども・若者総合支援センター“エールぎふ”

0歳から20歳前までの子ども・若者のあらゆる悩み・不安に対して、ワンストップで相談できる窓口として、一人ひとりの成長段階に応じて総合的・継続的な支援を行います。



総合相談窓口：0120-43-7830
gifu-kodomo-wakamono@world.ocn.ne.jp

☎ 岐阜市明徳町11 ☎ 8:45～17:30
☎ 土曜・日曜・祝日、年末年始

幼児教育の推進

幼稚園や保育園などの幼児教育施設だけでなく、小学校や研究機関、家庭・保護者、地域など、幼児期の子どもに関わるすべての人が協力しあう“オール岐阜”の体制で子どもの成長を支えています。



☎ 岐阜市幼児教育課 058-214-7124

家庭教育の応援

子どもとの関わり方等を学べる「幼児教育セミナー」を開催しています。



幼小の接続

“小1ギャップ”を解消し、子どもの成長に寄り添う教育環境を実現するため、保育士や幼稚園教諭、小学校教諭を対象とした合同研修会や、幼児と小学生の交流会を実施しています。



実践研究の推進

幼児教育の質を高めるため、市立幼稚園にて公開保育・研究会を実施しています。また、幼児教育関係者のスキルアップを図るため、研修及び情報交流を行うなど、実践研究を推進しています。



ICT教育の推進

デジタル教材などのICT(情報通信技術)を活用した教育など、未来を担う人材を育てるための教育を実践しています。ICTを日常的に活用することで、家庭と学校、児童生徒と教職員がよりつながることができる環境を確保します。1人1台タブレットを活用した授業により、探究的・対話的な学びの実現を推進しています。また、オンラインによる学習支援システムの構築により、緊急時でも止まらない学びを実現します。



☎ 岐阜市教育研究所 058-241-2114

岐阜市立草潤中学校の開校

不登校を経験した生徒のありのままを受け入れ、個に応じたケアや学習環境の中で心身の安定を取り戻しつつ、自分の可能性を見出すことを目指し、公立では東海地区初の不登校特例校として、2021年4月に開校します。



☎ 岐阜市教育政策課不登校特例校設置準備室
058-214-2240(～2021年3月31日)
岐阜市立草潤中学校 058-263-3801(2021年4月1日～)

施設紹介

ドリームシアター岐阜

子どもから大人まで、幅広い年代が参加できるセミナーやイベントを開催している教育・生涯学習施設です。



☎ 岐阜市明徳町6
☎ 9:00～21:00(日曜・祝日は17:00まで)
☎ ホームページにて確認
☎ 058-262-2811

岐阜市科学館

スケールの大きな実験ショーや多彩なプログラムを上映するプラネタリウムなど、参加体験型の展示を通して科学を学べる知的レジャー施設です。



☎ 岐阜市本庄3456-41
☎ 9:30～17:30(入館受付は17:00まで)
☎ 月曜(祝日の場合は火曜)、祝日・振替休日の翌日
年末年始(12月29日から1月3日) ☎ 058-272-1333

定住支援

今、住みたいまち
岐阜市

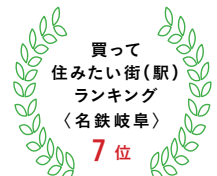
岐阜から名古屋までは電車で20分～30分。名古屋圏へのアクセスが良く、主要施設が整備されている岐阜市の人気はますます上昇しています。岐阜市に移り住んで就職したい人、お店を始めたい人、空き家を改修して住みたい人などに、定住の際に役立つ様々な制度がそろっています。

ランキング情報

名古屋市中心部へのアクセスの良さなどから「岐阜人気」が定着



名古屋市中区、
東区、千種区に次いで、
岐阜市が4位に
ランクイン
名古屋市の他の
行政区を抑えての4位



出典)不動産・住宅情報サイト「LIFULL HOME'S」2020年中部圏版 LIFULL HOME'S借りて／買って住みたい街(駅)・行政区ランキング
出典)転職サイトdoda(デューダ)(運営:パーソルキャリア株式会社)「女性の働きたい街ランキング2018東海」

空き家改修費補助事業

新婚世帯、子育て世帯もしくは市外からの転入世帯で、2人以上の世帯を対象に、ご自身が定住するために空き家を購入し、改修する場合に、対象工事費用の1/2(居住用部分に限る。上限あり)を補助するものです。
※ 改修工事契約前に申請が必要です

岐阜市まちづくり事業課
058-214-2258

農業次世代人材投資資金

新しく農業を始めた人に対し、農業を始めてから経営が安定するまでの最長5年間、前年の所得に応じて年間最大150万円を交付する国の制度です。

※ 就農時に50歳未満かつ就農してから5年以内の方が対象です
※ 2年目以降は前年の所得によって交付額が変動します

岐阜市経済政策課
058-265-3896

理想の住まいが見つかる

好条件の土地や物件も、岐阜市ならきつと予算内で見つかります。

1㎡の土地価格比較

岐阜市 16万4千円/㎡
(JR岐阜駅周辺)

名古屋市 29万6千円/㎡
(名古屋市営地下鉄八事駅周辺)

出典)令和2年1月1日 国土交通省地価公示
※ 駅から600m地点の土地価格を比較

2LDKの家賃相場比較

岐阜市 6.2万円
名古屋市 10.2万円
(名古屋市全区の平均値)

出典)不動産・住宅情報サイト「LIFULL HOME'S」
「マンション・アパート・一戸建ての相場表(令和2年10月30日現在)」

まちなか居住支援事業

まちなか居住重点区域にご自身が住むための住宅を新築・購入する2人以上の世帯に対し、建設・購入費の一部を助成します。子育て世帯・市外からの転入などの要件により、助成額が異なります。

はじめての就職定住支援事業

進学時に市外に転居した若者が、はじめての就職を機に市内に定住すると5万円が支給される「リターン支援」を行っています。

岐阜市まちづくり事業課
058-214-4494

(一財)岐阜市にぎわいまち公社
058-201-4010

中心市街地活性化空き店舗活用事業

中心市街地の活性化を図るため、中心市街地にある商店街の空き店舗を借りて出店する人に対し、賃借料と初期費用の一部を補助する制度です。 ※ 賃貸借契約前に申請が必要です

岐阜市産業振興・企業誘致課
058-214-2360

移住相談窓口

岐阜市 総合政策課 058-214-2019

岐阜県 清流の国ぎふ 移住・交流センター

東京 窓口 080-7749-3317

名古屋 窓口 090-2619-2102

大阪 窓口 090-4083-0231

岐阜県 移住・定住
ポータルサイト「ぎふぎふぎふ」



医療・健康・まちづくり

魅力あふれるまち
岐阜市

岐阜市は市民が笑顔で健康的に暮らすための医療環境と安心の救急体制を整えています。また、社会状況の変化に対応し、快適で住みやすい持続可能なまちづくりを推進しています。

東海地方 No.1 の医療環境

人口10万人当たりの病院数・病床数・医師数がすべて全国平均を上回り、どれも東海地方の政令指定都市・中核市の中で1位となっています。

人口10万人当たり	岐阜市	全国平均
病院数	8.0	6.6
病院の病床数	1634	1212
医師数	403.7	258.8

出典)厚生労働省「平成30年医師・歯科医師・薬剤師調査」
「令和元年医療施設調査・病院報告」

救急車が現場に到着するまでの時間や、患者を病院に収容するまでの時間が全国平均と比べて早いなど、救急体制が整っています。突然の容態の変化や事故による負傷など、一刻を争う緊急事態のときも安心です。

	岐阜市 消防本部	全国平均
現場到着 平均所要時間	7.0分	8.7分
病院収容 平均所要時間	31.0分	39.5分

出典)消防庁「平成31年救急・救助の現況(平成30年中データ)」

クアオルト®健康ウォーキング

ドイツのクアオルト(健康保養地)で行われている運動療法をもとに、日本で考察された「心身の健康づくり」のためのウォーキングです。まちの中心に豊かな自然や歴史文化資産、温泉などがある強みを生かし、健康づくりと観光振興を推進する「クアオルト®健康ウォーキング」に取り組んでいます。



2つのウォーキングコース“クアの道”
・「金華山・長良川・岐阜公園」コース
・「百々ヶ峰・ながら川ふれあいの森」コース

岐阜市健康増進課 058-252-7193

Neo work-Gifu

リモートオフィスやシェアオフィスなど、ワークライフバランスを考えた働き方が可能。岐阜市から始まる新しい働き方のモデルとして注目です。



岐阜市高砂町1-17
岐阜イーストライジング24 2F
9:00～21:00(水・日曜のみ18:00まで)
祝日
058-264-8355

リノベーションまちづくり

リノベーションまちづくりとは、遊休不動産(空きビルなど)をリノベーションの手法を用いて再生することで、産業振興、雇用創出、コミュニティ再生、エリア価値向上などを図る取り組みです。

やながせRテラス



来街者やまちづくりの担い手、テナント入居者などが集い・交流する新しい場を開設しています。

岐阜市まちづくり事業課 058-214-4494
(一財)岐阜市にぎわいまち公社 058-201-4010

リノベーションスクール@岐阜

遊休不動産などを活用したりノベーションによるまちづくりを推進するため、全国から受講生が集いリノベーションスクール@岐阜を開催しています。



公共交通への自動運転技術の導入

公共交通への自動運転技術の導入を目指し、中心市街地の幹線道路において、県内初の小型バス車両による自動運転実証実験を、市民モニター約100人の方々にもご参加いただき実施しました。



自動運転実証実験の様子(2020.11)

岐阜市交通政策課 058-214-2028

2021年春開庁「岐阜市役所新庁舎」

18階建ての新庁舎は、多目的に利用できる市民交流スペースや、4階北側には岐阜城・金華山を望むことができる緑化庭園などが整備されます。市役所の窓口とともに、レストランや売店、金融機関、郵便局といった施設を集約し、総合的なワンストップサービスを提供します。



岐阜市新庁舎開庁準備課 058-214-2673

2021

GIFU CITY EVENT CALENDAR

岐阜市イベントカレンダー

伝統ある祭りや、若者が中心となってまちを盛り上げる催しなど、1年を通して楽しめるイベントが盛りだくさんです。

※ 新型コロナウイルス感染症の影響等により、中止・延期になる場合があります。

1月1日
金華山山頂からの初日の出



金華山山頂からの初日の出

2月3日
節分祭
会場／伊奈波神社

2月21日
全日本学生
落語選手権 策伝大賞
会場／長良川国際会議場



全日本学生落語選手権 策伝大賞

3
MARCH

3月上旬
ぎふ梅まつり
会場／梅林公園周辺



道三まつり

5月11日
ぎふ長良川の鵜飼開き
会場／長良川河畔



ぎふ長良川の鵜飼

5
MAY

4月3日・4日
岐阜まつり・道三まつり
会場／伊奈波神社・中心市街地

4月10日
手力の火祭
会場／手力雄神社

4月25日
高橋尚子杯
ぎふ清流ハーフマラソン
会場／岐阜メモリアルセンターほか



岐阜城パノラマ夜景

GW、夏季の土日を中心に開催
岐阜城パノラマ夜景

9月上旬
柳ヶ瀬ジュラシック
アーケード
会場／柳ヶ瀬商店街



柳ヶ瀬ジュラシックアーケード

7月16日
長良川まつり・鮎供養
会場／長良川河畔・神明神社

7
JULY

8月中旬
手力の火祭・夏
会場／長良川公園



手力の火祭

8月18日・19日
大龍寺の灯ろうまつり
会場／大龍寺

8
AUGUST

10
OCTOBER



ぎふ信長まつり

10月2日・3日
ぎふ信長まつり
会場／中心市街地

10月15日
ぎふ長良川の鵜飼じまい
会場／長良川河畔

11月上旬
岐阜市農業まつり
会場／JR岐阜駅北口駅前広場(予定)

11月中旬
ぎふサイエンス
フェスティバル
会場／岐阜市文化センター

12月11日
池ノ上みそぎ祭
会場／葛懸神社



池ノ上みそぎ祭

12月22日(冬至)
こよみのよぶね
会場／長良川プロムナード付近



こよみのよぶね

プロスポーツ

FC 岐阜

FC Gifu
シーズン：3月～12月



© FCGIFU

岐阜スーパース

シーズン：1月～6月



サンデービルディングマーケット

柳ヶ瀬商店街で毎月第3日曜日に
開かれる「手づくり」と「こだわり」が
詰まったライフスタイルマーケット



東京オリンピック・パラリンピック

オリンピックのシンボルでもある聖火。神聖な
炎にみんなの想いが加わった、熱く明るい聖
火を持つランナーが、4月4日に岐阜市のまちを
駆け抜けます。また、岐阜市のホストタウン相手
国であるスロバキア共和国、カナダ、コートジボ
ワール共和国との交流を図っています。



日本食文化会議 2021 岐阜

“食”に関する最大級の著作家
ネットワーク「日本食文化会議」
は、日本の食文化の発展・継承
などを目的として毎年、全国大
会を開催。2021年に岐阜市で行
われる大会の最新情報はWEB
サイトで。
<http://jfcf.or.jp/>

エンジン01(ゼロワン) in 岐阜

開催期間 10月8日～10月10日
作家の林真理子氏が幹事長を務める「エンジン
01文化戦略会議」と、岐阜市も参画する地元実
行委員会が連携し、各分野の第一線
で活躍する文化人・芸術家たちによ
る多彩な講座やイベントなどを通じ
て、地域の方々と“知の交流”を図る
「エンジン01 in 岐阜」を開催します。



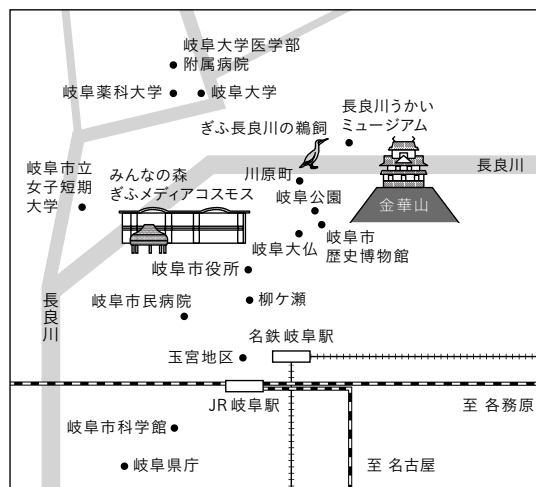
文化戦略会議

ねんりんピック岐阜 2021

開催期間 10月30日～11月2日
「ねんりんピック」の愛称で親しまれている「全国健康
福祉祭」は、60歳以上の方を中心としたあらゆる世代
の人たちが交流を深めることが
できる、スポーツ、文化、健康と
福祉の総合的な祭典です。岐
阜市では、テニス、弓道、水泳な
ど7種目を開催します。



JR新快速なら岐阜駅から名古屋駅間の停車駅1駅



岐阜市公式
Instagram
「ギフスタ！」



「エエトコタント岐阜市」Webサイト
<https://cool-gifucity.jp/>



※ 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して取材を行いました

企 画	株式会社ミユキデザイン
デザイン	RADICAL 岩井 宏和 / 長谷川 愛海
コピーライティング	grain 堀場 繁樹
撮 影	TONE TONE PHOTOGRAPH 対馬 一宏 小坂 奎介
発 行	岐阜市 広報広聴課 058-214-2061
発行月	2020年12月



Gifu
City Promotion



